

## 「うちめぐり」における回遊行動と来訪者による評価

### - 足助における観光と生活の融合をめざしたまちなか社会実験 その2 -

足助                      生活空間                      観光  
アンケート              社会実験                      来訪者

正会員      ○前川 綾音      \*2      同      永瀬 節治      \*3  
同              窪田 亜矢      \*2      同      矢吹 剣一      \*1  
同              李 峰浩      \*2      同      王 新衡      \*4

#### 1. 本稿の目的と構成

本研究は、2010 年 11 月に愛知県豊田市足助地区において東京大学都市デザイン研究室と豊田市まちづくり推進協議会まちづくり部会の主催で実施したまちなか社会実験「あすけうちめぐり」の結果をまとめ、今後のまちづくりの方向性について示唆を得ようとするものである。

特にその2ではまちなか社会実験の実施状況について述べるとともに、足助のまちなみの楽しみ方の可能性を、訪れた来訪者に対して実施したアンケート結果をもとに検証する。

#### 2. まちなか社会実験の実施状況

##### 2-1 効果の検証方法

今回の社会実験では、うちめぐり案内所、田口邸（まちづくりミュージアム）、小出邸（塩の道ミュージアム）、塩座、さかたやの4ヶ所に受付を設けた。受付では受付時刻を記録するとともに来訪者に通し番号付きのパスポートを発行し、アンケートを1人につき1枚ずつ配布した。

パスポートケースの返却を義務づけ、その際にアンケートも回収することにした。返却場所は上記の4カ所とした。これらの場所にはアンケート記入スペースも設け、アンケートの回収も同時に行なった。回収時には回収場所、時刻、回答者のパスポート番号を記録した。

この記録をもとに来訪者の動きの把握を行なった。受付の記録とアンケート用紙のパスポート番号を対応させることで、同一人物の受付時刻と受付場所、アンケート回収時刻と回収場所を特定し、滞在時間等を計算した。

##### 2-2 観光客の流入、滞在状況

当日は香嵐溪や案内所周辺でマップを計 3750 部配布し、来訪者への宣伝を行なった。すると受付人数から来訪者は2日間で合計 701 名（13 日 332 名、14 日 369 名）となった。2日間とも天候に恵まれ、いくつかの新聞で報道されたこともあり当初の予想を上回る参加者数であった。

来訪者のうち、うちめぐり案内所で受付を行なった来訪者が 598 名（約 85%）と最も多く、次いで田口邸の 47 名（約 7%）であった。アンケートの回収部数が最も多かったのは小出邸の 298 部（約 54%）、次いで案内所の 184 部（約 33%）であった。このことから、来訪者の相当数がルートの起点となる案内所から小出邸までのまちなか全体を回遊したことがうかがえる。

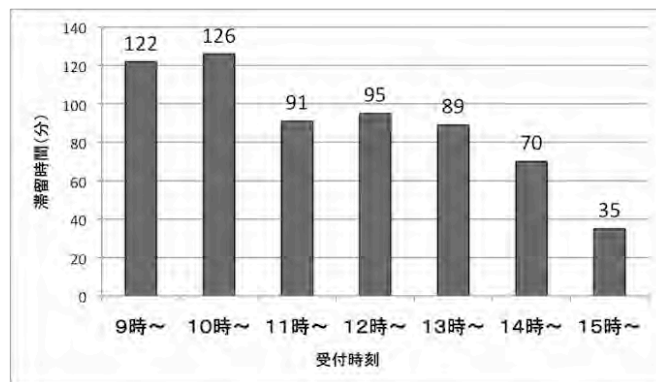


図1：受付時間帯別 平均滞在時間

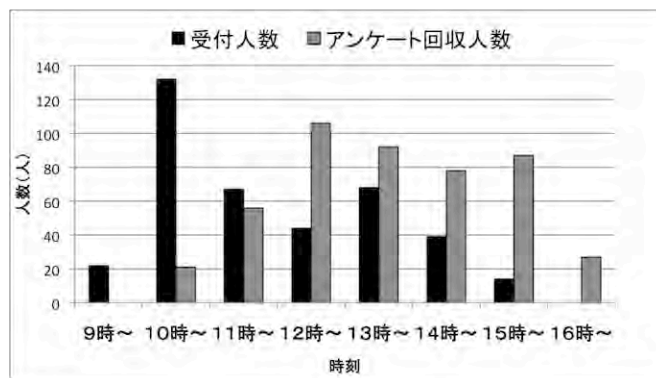


図2：時間帯別 観光客の流入・流出人数

また受付時間帯別の平均滞在時間をみると、10時台にまちなか観光を始めた来訪者が2時間6分と最も滞在時間が長く、全時間帯の平均滞在時間は1時間40分であった<sup>1)</sup>。香嵐溪から小出邸までは徒歩約15分でたどり着ける距離であるから、うちめぐりの各スポットが滞在時間に寄与しているということが考えられる。

#### 3. アンケートの結果

##### 3-1 アンケートの概要

アンケートではうちめぐりで訪れたスポットや、どのような点を楽しんだか、また足助の町並みへの要望などを、選択肢と自由記述欄によってきいた。

回収数は 552 部（配布：701 部、回収率：78.7%）であり、回収率が非常に高かった点と、また自由記述欄への書き込みが多かった点が今アンケート調査の特徴であった。このアンケート回収状況から、来訪者の満足度が非常に高かったということが考えられる。

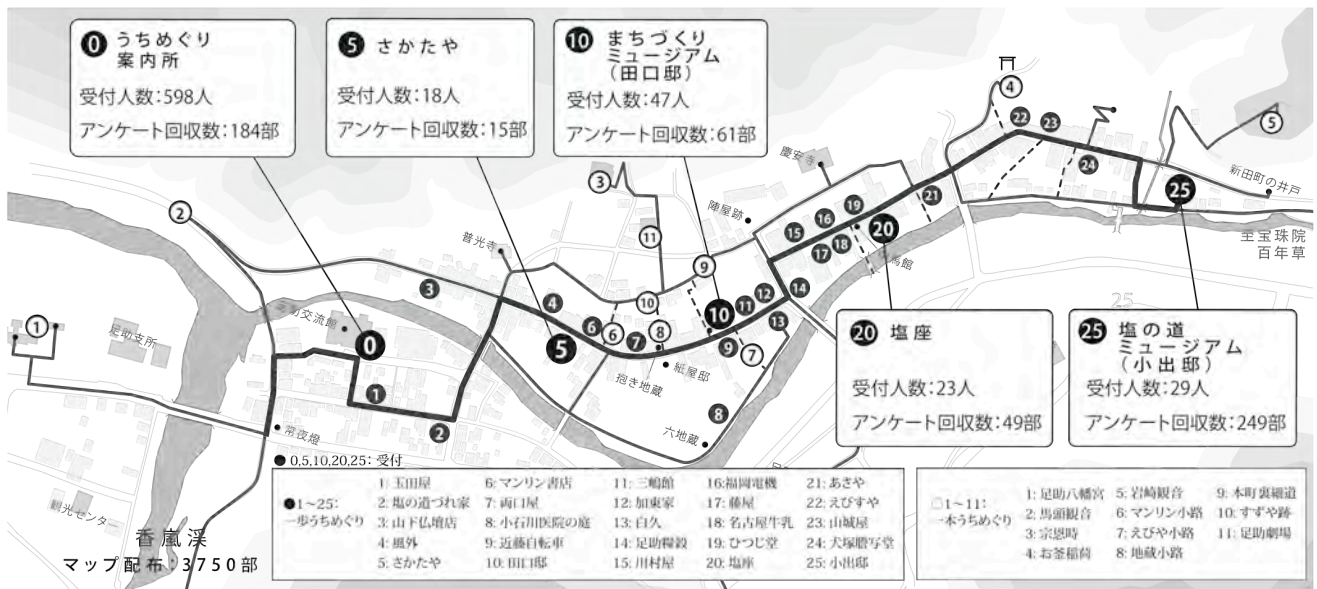


図3：一歩うちめぐり実施場所

### 3-2 回答者の属性

回答者のうち 72%が愛知県内に住んでおり、また全体の半数が 50 代以上であった。また「足助地区を初めて訪れた」と答えた人も半数いた<sup>2</sup>。訪問が2回目以降の人のうち「これまでに訪れたことがある場所」の問いに香嵐溪 390 名、町並みへの来訪者も 253 名いることから、町並みに興味を持つ参加者が多かったことがうかがえる。

### 3-3 来訪者が訪れた場所

来訪者が実際に訪れた場所として回答した結果を図4で示す<sup>3</sup>。結果はルート上の終点に位置づけた小出邸（25：塩の道ミュージアム）を訪れた人が最も多く、次いでマンリン書店（6）、田口邸（10：まちづくりミュージアム）の順であった。普段から観光客が訪れる店舗と社会実験でアピールした拠点に多くの来訪者が訪れたと言えるが、なかでも小出邸周辺は普段は訪れる観光客の少ないエリアであり、拠点を仕掛けたことで、予想以上の誘導効果が得られたと言える。

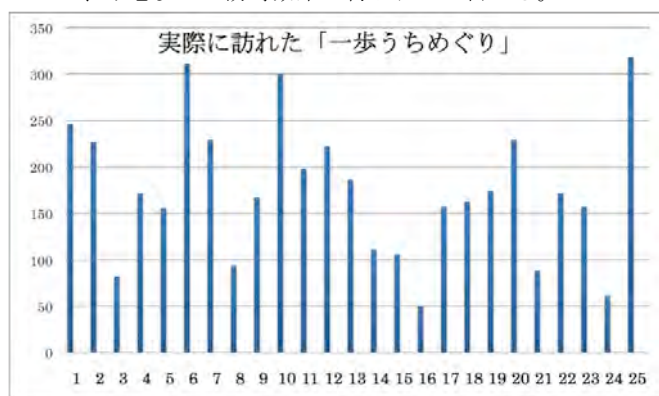


図4：一歩うちめぐりを訪れた来訪者数（番号：図3の凡例に対応）

### 3-4 生活空間に触れることへの評価

マップに示したスポットのうち、「実際に訪れてみてよかったと感じた場所」として半数以上の人々が「一歩うちめぐ

りのお店やお宅」を挙げていた。その理由として「古い家の様子が見られて良かった」など建物の設えはもちろん、「おかみさんから明治からの歴史のお話をして頂いて、とても勉強になった」「きさくな会話が出来るのがとても心地よかった」「町の方が説明してくれてその家に隠れている素晴らしいさを知ることができた」など、地元の人々との交流を楽しんだとの声が聞かれた。

足助の町並みを歩いた結果、「また足助の町並みを訪れたと思う」と答えた人は 95%にものぼり、その理由として半数以上の人が「足助の町並みをゆっくり歩きたい」と回答した。今回の社会実験で紹介した足助の生活空間の価値や魅力が十分に伝わったことを示唆している。

### 4. 来訪者からみた「うちめぐり」の課題

全体として、来訪者は生活空間に触れる観光スタイルを楽しむことができ、そこでは地元の人々との交流が重要な役割を果たしていることが明らかになった。

一方、公開されたお宅を訪れなかった理由として「商品を買わないのに気が引けた」「個人宅なので入りにくかった」と回答した人もおり、今後は来訪者の感じる上記の抵抗感をどう解消していくかが課題である。

また、まちなかに拠点となる場所を複数仕掛けることで、来訪者をまちなか全体に誘導できることがわかった一方で、アンケート結果から「駐車場の整備」「無料休憩所の整備」などを求める声もあり、空間的な整備も同時に行なっていく必要があることも今後の課題である。

<sup>1</sup> アンケート回収時刻より算出したため、実際の滞在時間はこれよりも長いと考えられる。

<sup>2</sup> 「町並みを初めて訪れた」と解釈した人もいたと思われる。

<sup>3</sup> この項目は複数選択式のため記入漏れ等も見られ、実際には各場所結果以上の人数が訪れている可能性がある。

\*1 東京大学先端科学技術研究センター 助教・工博

\*2 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程

\*3 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程

\*4 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授・工博

Assist. Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr.Eng.

Master's course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo

Doctoral course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo

Assoc.Prof., Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo, Dr.Eng.